

2023年岡山県立大安寺中等教育学校卒

2023年国際教養大学進学

鶴田周子さんからのメッセージ

国際教養大学を意識したきっかけ

私が国際教養大学を知ったのは、中学一年生の時です。英語の先生が、秋田に全部の授業を英語でやるすごい大学があり、ある人は阪大の外国語学部を蹴って秋田に行ったという話を授業中によくしており、ぼんやりとすごいなと思っていました。本格的に意識するきっかけとなったのは、高校一年生での文理選択です。宇宙に興味があったため、最初は理系に進もうとしており、成績的には理系に進んでも大丈夫と言われていました。しかし、どうしても英語に関わり続けたいという思いから、英語の先生に相談したところ、国際教養大学をととても薦められました。英語は好きだけれど、英語の成績は学年で160人中30~40位ほどで特別優れていたわけではなかったため、薦められた時は自分にはとても無理な大学だと思いました。その後も何人かの先生と10回ほど面談をしてもらい、最終的に国連職員になるという夢を決めて、そこから辿ると文系の方が良さそうということで文系を選び、志望校を国際教養大学にしました。これが、国際教養大学を本格的に意識したきっかけです。

国際教養大学の特徴

国際教養大学の特徴を7つ紹介します。

- (1)すべての授業が英語で行われます。全て英語なんて授業が理解できないじゃないか！と思う方々、安心してください。国際教養大学に入学すると最初に英語集中プログラム(EAP)でアカデミック・イングリッシュを学びます。そこで、大学において英語で学問を深めていくために必要な英語力を修得します。そのため、英語に関する不安は解消されます。
- (2)ディスカッションを重視する少人数授業が多いです。大学といえば、大人数が教授の講義を黙々と受ける印象を持ちがちですが、国際教養大学では1クラス17人ほどの少人数で、学生が能動的に授業に参加することが求められます。そのため、他の学生や教授とトピックに関するディスカッションを重ねることで、さまざまな社会問題に対する理解を深めることができます。
- (3)リベラルアーツ教育を行っています。リベラルアーツ教育とは、簡単に言えば幅広い分野を学ぶ教育で、一つの分野を極めるのではなく、複数の分野の知識を学ぶことができます。そのため、あるトピックに関するディスカッションを他の学生と行くと、自分が他に学んでいる分野の観点や、他の学生が学んでいる分野の観点からトピックを考えることができ、社会問題をより多面的に考えることができるようになります。
- (4)一年次は寮生活が必須です。寮生活ではルームメイトとうまく生活していくために、何かを妥協しなければならない時がたくさんあります。そのため、寮生活の中で自分の意見を主張しつつも、状況に応じて妥協する柔軟性を身につけることができます。

(5)三年次に1年間の留学をすることが必須です。国際教養大学は51カ国の201大学と提携しています。そのため、幅広い選択肢から留学先を選び、留学先で専門知識を養うことができます。また、授業料は相互免除、留学先の単位は卒業単位に認定されることもポイントです。

(6)公立のため、学費が比較的安いです。特に、国際系で充実している大学は私立が多く、国公立が少ないと個人的に感じています。そのため、私立と比べると年間授業料が30万円ほど安いところは一つの魅力であると思います。

(7)ディベート部のレベルが高いです。これは、英語ディベートが大好きな方々にとっては必須の情報ですが、国際教養大学のディベート部(即興ディベートが多い)は国内大会準優勝、世界大会出場など、とても高いレベルを持っています。そのため、高いレベルの英語ディベートを楽しみたい方々にはおおすすめの大学です。

国際教養大学を志願した理由

志願理由は8つあります。

- (1)英語で様々なことを学べるから。
- (2)ディスカッションを通して、多角的に社会問題を分析することができるようになるから。
- (3)寮生活を通して柔軟性を養うことができるから。
- (4)英語ディベート部のレベルがとても高いから。
- (5)フランス語、国際関係学、ジェンダー学を学ぶことができるから。
- (6)公立だから。(学費が比較的安いから)
- (7)国連ユースボランティアプログラムを提供しているから。(2022年までは提供しているが、今後どうなるかはわからないと聞いた)
- (8)自然がとても豊かで、お金を払って遊ぶ施設(ボーリングとか)が大学の近くにはほとんどなく、勉強に集中できる環境だから。(大学の隣が森で、自然が本当に豊か。道路を歩いても、木々の香りがするほどだった。)
- (9)高校2年生、3年生で英語の成績がどんどん上がっていったから。最初は本当にパツとしない成績だったが、国際教養大学を目指すうちに英語の実力テストは必ずトップ7に入るようになった。(ただ、良くて2位までで、1位を取ることはできなかった)そのため、自分の実力の観点からも、国際教養大学を志願した。

対策

私は学校推薦型入試で合格しました。そのため自己アピール書、面接、英語小論文、それぞれの私が行った対策を紹介します。

[自己アピール書対策]

5月から練り続けました。最初は字数を気にせず、自問自答を繰り返しながら、書ける情報をすべて書きました。これ以上追加情報がないとなってから、8月に字数を削る作業を始めました。そして、9月に手書きをしました。

自己アピール書に関して、4つアドバイスがあります。

1つ目に、英検準一級を取っておくことです。これを取っておくと、客観的な英語力を示すことができるだけでなく、万が一推薦入試に落ちた場合でも一般入試で英語の共通テストの得点をみなし満点にしてもらえます。

2つ目に、ボランティアや大会、交流事業などにはなるべく多く参加しておくことです。私は高校1年生、2年生で様々なものに参加したため、賞状や資格を書く欄はすべて埋めることができ、また様々な経験から学んだことを書くことができました。これにより、好奇心やチャレンジ精神旺盛なところをアピールすることができたため、高校1年生から様々な活動にチャレンジしておいてほしいです。

3つ目に、必ず国際教養大学との関連を書くことです。自己アピール書のテンプレートを見たらわかりますが、国際教養大学の志願理由を直接問われる欄はありません。そのため、私は全ての欄の最後に国際教養大学との関連を示すことで、パッションをアピールしました。

4つ目に、情報収集を怠らないことです。私が合格できたのは、情報収集を隈なく行なったからでもあります。分からないことがあれば、調べるのも手ですが、AIUを広め隊に質問することで、本当に有益な情報を得られますよ。

[面接対策]

夏休みが始まってから純ジャパ3人(国語の先生2人、英語の先生1人)、ネイティブ2人と面接練習を始めました。7月8月は週に一回ほど、9月からは週に2回か3回、10月は週に3回、11月は放課後ではなく、朝や昼休みにほぼ毎日入れて、何をどんな形で言われても答えられるようにしました。過去問はAIUを広め隊から収集しました。

想定質問はGoogleスプレッドシートに書きました。自己アピール書で突っ込まれそうな所と、SDGsそれぞれの現状、問題点、原因、解決策、意見を日本語と英語でまとめました。(すごく時間がかかったからおすすめはしません。ただ、私はなんでもやり切らないと不安になるタイプのため、自信にはなりました。)

[エッセイ対策]

5月から週1で始めました。純ジャパ1人、ネイティブ2人に添削してもらい、それをまた書き直してを繰り返しました。だいたい一つの過去問につき2回は書きました。夏休みは週3か4、夏休みが終わってからは週2か週3書き、精度を高めること、アカデミックな単語を入れること、AIUへのpassionを見せることを意識しました。ちょうどノート2冊分エッセイを書きました。過去問約20年分くらいだと思います。また、エッセイを添削してもらってこれはこの

言い方にしたほうがいいとかいうものは他のノートにまとめて、本番前に見られるようにしました。

すべての対策に関して言えることは、なんでも早めに計画的に行うことです。私は推薦は落ちる前提で一般の準備も並行して行っていたため、推薦にかける時間は制限していました。そのため、なるべく早く推薦の準備を始めることが精神的にも一番良いと思います。また、高校一年生から勉強に力を入れること、様々な活動に挑戦することも、推薦入試の観点からも、人として成長するという観点からも、意識してもらえたらと思います。

将来の計画

将来は国連女性機関において、アフリカでの女性の権利向上に貢献したいです。

国連職員を目指すきっかけは、中学3年生の時、緒方貞子さんのドキュメンタリーを見たことです。そのときに本当にぼんやり、国連ってすごいなと思ったことをきっかけに、国連職員という仕事を頭の片隅に置いておくようになりました。国連職員になる！と決めたのは、先ほど記したように、文理選択の時です。

アフリカにおいて活動したいのは、識字率や貧困率の男女格差が極めて大きい事に問題意識を持っているからです。これまではあまり、問題意識を持つことはありませんでしたが、総合的な探求の時間という授業の時に、興味のあるジェンダーについて調べていくと、アフリカでは特に深刻なジェンダー差別が行われていることを知り、問題意識を持つようになりました。

大学卒業後は、まず大学院へ進学し、国際関係学修士号を取得したいです。次に、国際協力に関係のある機関で実務経験を2年以上積みたいです。その後、JPO(Junior Professional Officer)としてアフリカで勤務し、任期が終わると国連職員として働きたいと考えています。

私の将来の計画は、読んでいただいた通り、並々でない、限りない努力が必要です。あまりにも大きすぎる計画のため、自分で決めたことではありますが、たまに自分でも無理ではないかと思ってしまうかもしれません。しかし、無理だと思っていた国際教養大学に合格でき、やっと計画のスタートラインに立つことができました。これから、私が本当に国連職員を目指していくのか、興味のある分野が今とは変わるのか、全くわからず、正直とても不安です。ですが、柔軟に様々な分野を学べる国際教養大学に入学できるため、今まで通り、目の前のことに全力で取り組み、楽しみながら生きていきたいと思っています。